



## ISFRニセコウィークが開催されました

国際ロータリー第2510地区

第6グループ ガバナー補佐

吉田 聡  
(倶知安RC)

ISFR (International Skiing Fellowship of Rotariansの略称) について詳しくは、次のURLをご参照ください。 <https://isfrski.org/>

北米で1974年に生まれたこの団体が、「日本でスキー・ウィークを実施したいと言っているんだけど」と石丸ガバナーから初めて聞かされたのが、2021年の12月頃。いったい何をやっている団体かと思い、ネットで検索すると障害者と健常者が一緒にスキーを楽しむ活動をサポートしている団体が、北米、ヨーロッパのロータリアンが中心になって活動をしていることが分かりました。

そんな世界のロータリアンが日本にやってきて日本の障害者のスキーをサポートしたいと言っているらしく、はて、北海道の障害者のスキー事情はどうなっているかと思い、調べてみたものの、全くと言って情報が無い。倶知安町在住でパラリンピック出場経験のある選手に聞くと障害者のスキー人口は数えるほど、しかも、チェアスキーでリフト・ゴンドラに容易に乗れるスキー場は日本にないらしいということが分かった次第です。

北米、ヨーロッパのスキー場のスキースクールには障害者用のレッスンが用意され、レンタルチェアスキーも豊富に用意されているらしい。

我が町倶知安町が誇るニセコグランヒラフ・スキー場にさえ、そんな用意は一つもない。

これが日本の障害者スキーに対する現状なのであろう。これで、冬期オリンピック・パラリンピックの誘致だなんて、お恥ずかしい話です。

障害者の方には、スキーやってみたい、でも…と諦めている、諦めた方がきつというに違いない。こういった方々へのサポートをロータリーも考えるべきではないだろうか？

ISFRの招致にあたって気づかされた大きな、大きな課題です。

さて、招致にあたり、前例がないだけに開催内容はほぼ手探り。本格的に準備に入ったのは約1年前。北米本部とのZOOMでの会議は、10回くらい重ねただろうか。

開催は2023年2月11日から18日間。倶知安町のニセコグランヒラフスキー場そばのホテル・ミッドタウンニセコを会場に米国、カナダ、豪州、アルバニアからの海外参加者26名、大阪南RCの20名をはじめ、東京各地のRC、白馬RCなどから総勢60名ほどの人員が参集してスキーウィークは始まりました。

2月14日は小樽RCの例会を訪問し、小樽RC及び小樽南RCメンバーが準備していただいた伝統芸能松前神楽、空手演舞を堪能し、ちょうど開催されていた小樽雪明りの道を楽しんでもらえたようです。

2月15日には、参加者が持ち寄った商品をオークションにかけ、集まった約25万円を蘭越町の児童養護施設愛星学園に蘭越RCを通して寄付させていただきました。

## GOVERNER'S Monthly Letter's

2月17日には、フェアウェルパーティーを倶知安RCで開催し、石丸ガバナーをはじめ、第6グループの各クラブのメンバーも駆けつけて総勢73名のパーティーとなりました。

倶知安町が誇る地域芸能の羊蹄太鼓の演奏、倶知安RC会員による真剣による演武でお楽しみいただき、最後の締めには、「手に手つないで」を全員で歌いました。手に手つないでは、日本RCだけの習慣かと思っていたら、英語版もあるんです、英語の手に手繋いで、まさに「世界と共に」です。

コロナ明け三年振りに手を繋いだ、と言って喜んでるメンバーが数多くいらっしゃいました。コロナでいかに人の結びつきが弱くなっていたか、みんな待ちに待っていた瞬間だったのでしょ。

ご参加いただいた国内外のメンバーの皆さん、ご満足してお帰り頂いたようで何よりです。お礼のメールを多数いただき、準備に費やしたこの1年は無駄ではなかったと思えます。最後に開催にあたって、ご協力を賜りましたメンバーの皆様に感謝申し上げます、ありがとうございました。

